

春 夏 秋 冬



私のひいひいおじいちゃん（父方の祖母の祖父）にあたる牧野毅は、明治期の大日本帝国陸軍少将だった。松代藩（長野県）の藩士の家に生まれ、佐久間象山に砲術を学んだ。私の叔父がさまざまな資料をあたって作成した Wikipedia の

記述によると、明治

維新後は兵部省権大録となり、東京湾の海堡の建設にも参加していたという。

毅おじいちゃんの最も大きな功績といえるのは、大阪砲兵工廠にて二十八センチ榴弾砲の完成に携わったことだろう。日露戦争で使われ、大きな効果を上げたとされる、有名な大砲だ。

私が立ち上げた「防人学」の調査として、この榴弾砲が六門装備

されていたという、長崎県の対馬にある姫神山砲台跡に行ったことがある。赤煉瓦でできた、いかにも明治期らしい弾薬庫の建物や、巨大な砲弾と大きな砲座を見て、会ったことのない毅おじいちゃんがそばにいるような、不思議な気持ちになったのをよく覚えている。

コロナ禍前に訪れた旅順の二〇

甲板を持つ中国の空母が、小さく一瞬見えた。横須賀では米軍空母「ジョージ・ワシントン」と「ロナルド・レーガン」を見たことがあるが、米中の空母を見たことがある一般人はそんなにいないのではないかと、密かな自慢である。毅おじいちゃんが見せてくれたのかもしれない。

私はメディア・スタディーズの立場から、自衛隊が協力した映画の研究で博士号を取り、現在は自衛隊や在日米軍の広報全般を研究している。自

ひいひいおじいちゃん

の話

須藤 遙子

三高地でも、観光客向けの二十八センチ榴弾砲のレプリカを見た。激戦地だった二〇三高地は、気持ちの良い丘の上にあり、現在では公園として綺麗に整備されている。今でも軍港として使用されている旅順港がよく見え、軍事的に重要な場所であったことがよくわかる。

衛隊が研究対象になったのは、実はなんと多くの成り行きだったのだが、研究を進めるうちに、自分が安全保障に興味があることに、後から気づくことになった。やはり土族の血なのだろうか。

今回の連載を一番喜んでるのは、毅おじいちゃんに違いない。皆さま、一年間どうぞよろしくお

旅順から大連に向かう車中か

願い致します。

（摂南大学現代社会学部教授）